

## 序章 計画の位置づけ

### 序-1 計画の背景

#### (1) 鳥取市における地域公共交通再編の背景

本市の公共交通の利用者は、自家用車の普及（モータリゼーションの進展）や過疎化、少子化等の進行により年々減少し、利用者の減少が減便や廃止などのサービス低下を招き、サービス低下がさらに利用者の減少を招くという悪循環となっています。

鳥取県東部の路線バス利用者は、平成10年には587万人、平成22年では272万人と315万人が減少し、ほぼ半減しています。

この状況が進むと、公共交通の利用者は減少を続け、路線を縮小・廃止せざるを得ない状況になることが予想されます。

こうした中、本市では、路線バスを補完する代替タクシーやNPO法人によるバスの運行、気高循環バスや福部循環バスなど地域の特性に応じた運行サービスを導入することにより生活交通確保を図っています。

また、現在「人を大切にすまち」の理念のもとに現状のバス路線を再編し、鉄道、タクシー、自転車などの交通手段と連携した新しい総合公共交通システムの構築に取り組んでいます。

この構想の核となるバス路線については、幹線と支線に再編することを基本とした新しいシステムを導入することとしています。

この取り組みにより、公共交通を維持・確保していくとともに、持続可能な公共交通を創っていきます。

#### (2) 南部地域における問題点と対応策の概要

鳥取市バス路線網再編実施計画（H23年3月策定）において検討してきた、南部地域における問題点とその対応策を以下に示す。

##### 問題点

現状の路線は各谷と鳥取駅間を結ぶ長大路線であり、幹線区間では運行本数が多い割に、重複運行で利便性の低いダイヤとなっている。

一方、支線区間では長大路線であるが故に各地域のニーズに沿った運行が困難となっており、生活の中で利用しにくい状況である。

また、バス停から離れた交通空白地域も見られる。

### 対応策

幹線区間と支線区間にわけることで、非効率な交通体系を効率化する。これにより、幹線区間では利用しやすいダイヤを設定し、支線区間は地域内での日常移動がしやすいダイヤを設定する。

デマンド（予約型）運行などにより、交通空白地域を解消する。

さらに、わかりやすい情報提供や利用促進策を実施し、利用したくなる公共交通を目指す。



## 序-2 計画策定のフロー

計画策定のフローを以下に示す。

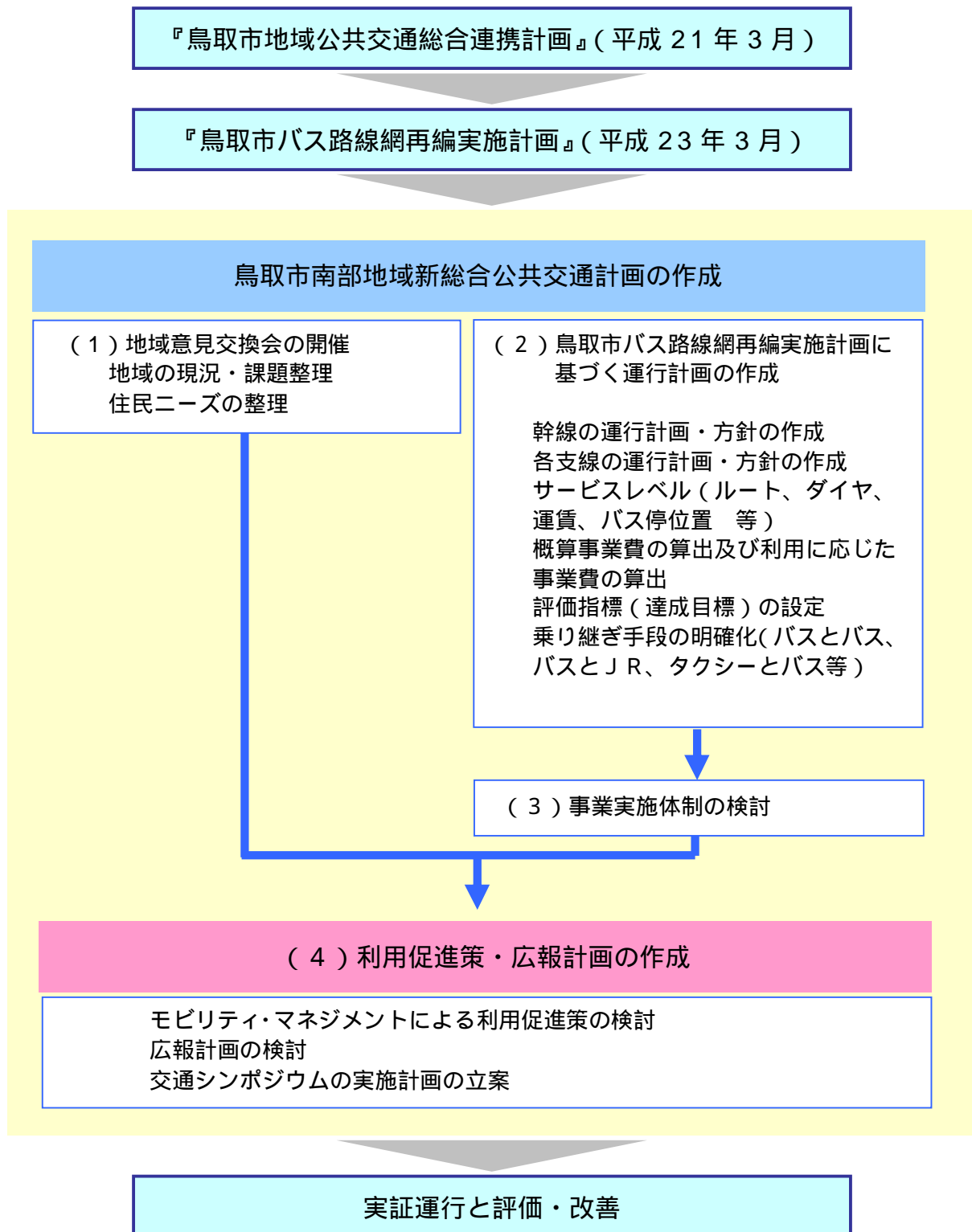


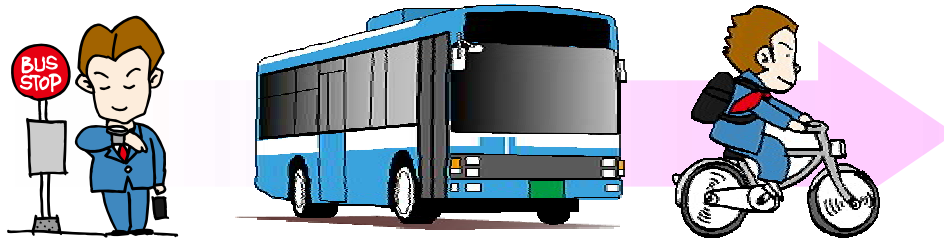
図 1 計画策定のフロー

### 序-3 目指す移動環境と効果

本計画は、以下のような移動環境の実現を目指す。

#### 各地域からの通勤利用が可能な移動環境

各地域から支線バスと幹線バスを乗り継いで、市内中心部まで移動し、中心部では自転車（コミュニティサイクル）やくる梨を利用してクルマを利用しなくても利便性の高い通勤を実現する。通勤利用を可能とするために、出勤時には待ち時間の少ない運行便数と所要時間を短くし、帰宅時には多様な勤務形態に対応した幅広い時間帯で便利なダイヤ設定と夜遅くまでの運行サービスを提供する。また、料金についても均一料金、上限制、乗り継ぎ割引など、安価に利用可能となるような施策を導入する。



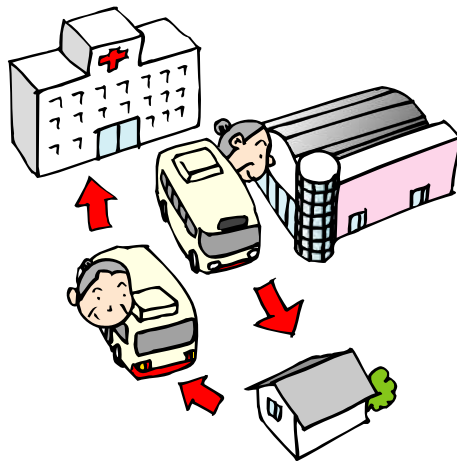
#### 夜遅くまで利用可能な移動環境（幹線のみ）

幹線については、普段はクルマでの通勤でも、飲み会の時には公共交通を使って帰宅できるようなダイヤを設定する。また、乗り継ぎ拠点にはあらかじめタクシーを予約しておけば、待ち時間なく自宅までスムーズに帰宅できるようにする。



### 気軽に通院できる移動環境

自動車を利用できない高齢者などが市内中心部の医療施設に通院する際に、自宅近くで乗降可能なフリー乗降区間の設定や、予約によって自宅近くで送迎可能なデマンド型（予約型）乗合タクシーなどを導入する。人口が少ない離れた集落などでは、乗合タクシーや過疎地有償運送によって、移動手段を確保する。また、地域内の均一料金、幹線の料金上限制、乗り継ぎ割引の導入によって、安く移動が可能なくみとする。



### 楽しく買物ができる移動環境

休日は自動車を利用しなくても市内中心部で買物やイベント参加など、様々な場所に自由に行くことができる移動環境を構築する。買物は、自宅近くで乗降可能なフリー乗降区間の設定などによって、重い荷物を持って長い距離を歩くことを無くす。

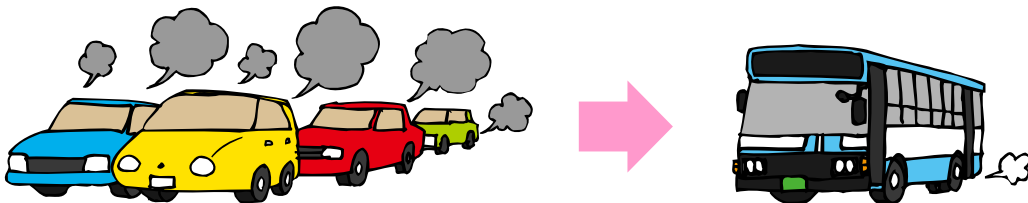


このような移動環境が実現することにより、自家用車から公共交通への転換が進めば、以下のような効果が望める。

### 期待される効果

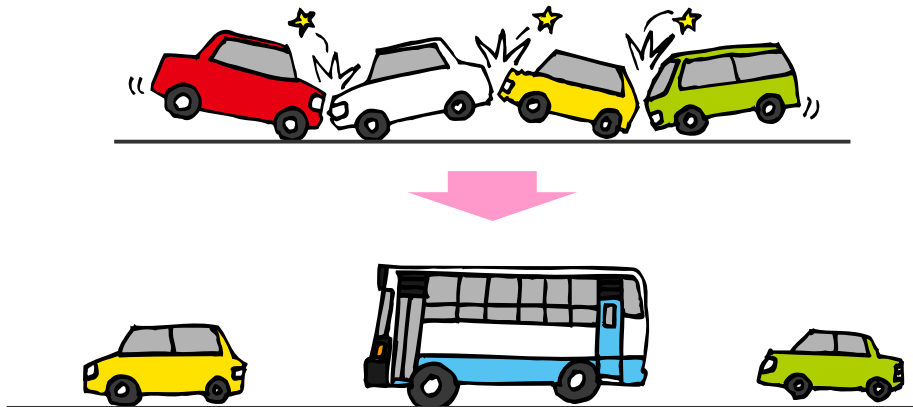
#### 環境に対する効果

自動車から公共交通に転換することで、排出するCO<sub>2</sub>の削減が可能となる。



#### 交通安全に対する効果

自動車交通が減少することによって、自動車に関係する交通事故の削減が期待できる。



#### 高齢者の介護予防

高齢者の方が自ら移動して買物等を行うことによって、介護予防の効果がある。

